

情緒たっぷり石畳

相国寺の参道、春に完成



スファルト道約二百方に石畳を敷く工事に着手しており「ゆくゆくは境内の道路すべてを石畳に替え、寺にふさわしい景観を整えたい」としている。

石畳化は、同寺の勸請開山・夢窓疎石の六百五十回遠遊を記念する事業の一つ。幅約五尺の参道の中央約二尺のアスファルトをはずし、石畳を敷く工事を進めている。石畳には、のみで表面をたいて光沢をなくした彫影石を使っている。一月下旬に着工し、三月に完成予定で、総事業費は約六千万円。

同寺によると、境内の道路は以前は地蔵道だったが、境内を東西に横切る上立売通が一九八〇年代にアスファルト舗装されたのに続き、ほとんどが

アスファルト化された。しかし「寺には石畳の落ち着いた風情が似つか

わしい」という声があり、主な参道から石畳化を進めることにした。

京都新聞 平成14年2月16日夕刊